

刊夕日九月九



定価 一紙五銭... 発行所 常警毎日新聞社

### 心の衛生

心配の上ぬり

市原三三男

恐れ、悲み、煩悶、心配といふ如き感情は皆一続きのものである。怒りは積極的で人に働きかけて行くが、此等は皆消極的で、自分自身で心を苦め身を縮める方の感情である此の消極的の不快感なるものを如何に始末して行くかといふことが、實は精神衛生の眞髓問題といふてもよいのである。

一體快感の方は發散的のものであるが、不快感の方は固著的のものである。『榮華は夢か幻か』と歌はれるやうに愉快といふものは忽ち散り失せる傾向があるが、苦痛の方はいつまでも頭の中にこびりついて中々抜けない。何が氣にかゝつてゐるのか、自分にも判然せぬほどの場合でも何となく不愉快を感じてゐることがある。そんな場合には昨日一昨日有つた事を思ひ浮べて、抑も何が不愉快の原因であるかを判断して見るがよい。さうしてその事柄について今一度考へ直して見ると、それは案外つまらぬ心配であることに心付いて、それで氣持もすらすら

と解けて來ることがあるのである。

身體のどこか、痒ゆいとき、痒ゆいと思へば益々痒ゆくなつて來る。齒が少し痛いときに「あゝ又痛み出すか」と待受けてゐると益々痛くなつて來る。そこへ何か重大な事が起つて其の方へ氣を取られると痒ゆいのも痛いのも忘れてしまふ。つまり此の場合の痒ゆさや痛さの分量は極めて僅かなものであつたのだがそれれに注意を向けるために段々とその分量を大きくした形になつてゐるのである。



流れ行くルンペン

M S B

俺は浮世のしほれ草路の夜づゆにしつとりとぬれて涙のすたれもの俺はルンペンやどもたぬひるはものこひさまよひて

### 水明句抄

山下率 賓子

葉もれ日のおどる釣床たゝみけり  
ハンモツクゆれぬるまゝに眠りけり  
鉢に植えて青蕃椒いつくしむ

渡邊 龍膽女

釣床に深く沈みて裸の子  
讀み伏せの書白々しハンモツク  
釣床に濤音遠くひびく

渡邊 何鳴

釣床に大樹の蟬の降る如し  
青蕃椒白き花もつ霖雨かな  
葉こみなる青蕃椒小さかりし  
釣床に松蔭深くかむりけり

あてどなきたびつゞけ行く

俺は男よ

花は咲こうか

いつ何處に

流れ行く身の

あてもなし

ルンペン哀れや

秋の月

見る目思に

うるんで

落ちた涙に

虫がなく

俺はルンペン

いたむ足

さげて浮世に

たひとり

あてどなきまゝ

歩みゆく

美味!

芳醇!

## 宗正らひた

山崎合名會社  
電話一〇番

實演と世界的名畫の公開として此の大破額

# 西線無戰事

全十七卷

——名著の映畫化——  
——名餘千八場登他氏ズーヤエ、スイユリ、氏イムハルオウ、ズイル、氏イレンヨジ——  
あに秋の此?かるゐてつとを度熊るな何如に件事〇〇は國某今!!て見を畫映の此!!民國我よめ唄の佛獨部西戰大洲歐ばれ願!!いまるなばねは思を時の〇〇きべる來と念信るた固確は民國我りただのたつあがり語物きなり極壯勇斯如はに戰激  
壇劇都帝てじ投をと用費と利權な大莫は館當るす躍飛てへ捕を端尖の味興衆大と新更の分氣に常を判公の判裁實事の此てし聘招を黨一夫正村木雄の

## 奥・演・白痴の第殺

無罪?

有罪?

——件事人殺族血の工女範模る知に導報の聞新——

館 平 : 錢〇二金料 : り限間日四りよ日十

### 耳鼻咽喉科専門

平町南町一(眞木辯護士跡)

## 増田醫院

電話四八二番

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番

(申込次第規則書進呈)

### ◇石城縣議戰情勢◇

## 一先づ足並みを揃へ 大舉豫選會に乗込む

田子健吉氏擁立者結束  
午前中には後援會

政友派から公認確實と見られて居る田子健吉氏は既に田町佐藤久吾方に事務所を設け、立候補の準備を進めて居るが、明日は午後一時から同派の豫選會開かれ

### 郡南民政候補は

## 陣痛の眞ツ最中

今度は湯本の矢吹氏が  
話題に登る

石城民政派の郡南に於ける候補者は若松派豫選會で決定を見た小松氏が何れへか旅行不在となり大平氏に「お鉢を廻せしも同氏

### 秋の色

## 強烈さを求めて

### 葉雞頭の新味

秋日和の「明朗性」は我々にとつて最も親愛なものである、それは廣義におけるスポーツ性である、街の雑踏から隔てられた田園趣味にはこの「明朗性」を遙かによく生かしてゐる

が同派一部の有志は早くも此事を開き同町に於ける

### 同派の先輩たる材木

商矢吹佐一氏を凌いで石川氏を押すは失當の處置なりといふべき極力矢吹氏に立候補を慫慂しつゝあるとの事にて依然として同派郡南候補は陣痛の眞最中である

### 平町勞銀

平町役場が昨今の勞銀を調査した處に依ると一日二圓を以て他は全部一圓臺のみであるが夫れすら職にあり付けず困つて居る者が多いとの事である

- 並人夫 七〇
- 土方人夫 八〇
- 女人足 五〇
- 鳶人夫 一、二〇〇
- 大工 一、〇〇〇
- 煉瓦製造 一、〇〇〇
- 煉瓦積 二、〇〇〇
- 石工 一、五〇〇

### 今日の話

十二歳のときから紡績工場の糸捲小僧として働いただけであつて、カーネギーは酔いも甘いもなめつとした抜け目のない商人であつた競争者に對しては無慈悲と思はれるほど猛烈に戦つたが、部下にとつてはこの上ない慈父であつた。腕のあるもの頼りになるものはドントン抜けてきて、これに目の飛び出るやうな高給を拂つた、彼の成功の秘訣は部下を愛したのだつた。俺が死んだら、墓銘には、かう書いてくれ——此處に、自分より数段えらい人物を左右に有せし人眠る!!とね——

### 平上水道の導水管

## けふから埋没作業

### 益々工事が進捗

平町上水道擴張工事最後の大工事である現在の配水能力を一、二倍とする容積五萬八千立方尺の大配水池は去月下旬同町八幡小路の現

### 學童養蠶を

## 組合が獎勵

既報石城郡平窪、錦兩村小學生の夏期一蠶の飼養は既記の如くであるが石城養蠶組合では郡下各小學校に獎勵する爲め先づ前記兩小學校へ賞品及び賞状を送る事になり錦村小學校には既に四日賞品を送付し平窪小學校では来る十一日賞品授與を行ふ筈

### 眞綿講習を

## 各所に開く

石城養蠶組合では養蠶あがりの農村副業として豫てより眞綿の製造を奨励して居たが同講習會を徹底せしめる爲め今回講習會を開催する事になり来る十三日より一週間箕輪村宇高野小學校廿日より一週間永戸村小學校にて夫々開催する事に決定したが希望があれば郡下各町村で行ふ筈

### 鎌田の馬市場で

## 種牡馬検査

石城郡に於ける本年度定期種牡馬の検査日は本日石城産馬組合へ縣より送達あつたが十月十四日午前八時より平町鎌田町の元馬市場に於て行ふ事になつたので各種牡馬の所有者は検査に萬遺漏なき様注意されたと

### 教授法研究出席

本縣師範學校に來月一日及び十一月五日に開かれる小學校本科正教員の教授法講習會には石城郡下からは五名宛出席と決したので希望者は第一回は九月廿日迄第二回は十月五日迄に各町村

### 平町人事

- △丁目二四ラムネ製造業佐藤喜七(二四)石城郡四倉町新町十七松本マサ子(二三)
- △朝鮮慶尙北道大邱府七星町 建築業竹内直一(三四)南町六四當時朝鮮大邱府七星町 高橋リキ(二八)
- △石城郡赤井村大字西小川字平久田松崎頼母(三〇) 播磨播磨小路十二大河内愛子(二二)
- △長橋町二七 源吉孫松本玉江(一ツ)

### 貸切の御用命は?

獅子吼(四四九)ノ勢デ  
眞先ニ……(マツサキ)  
三九ニタクシーへ!!!

# 失明した戸田一等卒 氣丈にも行軍を續く

## 同僚が過つて發射した拳銃

### 健氣なる惜別の言葉と 更らに父徳藏氏の心根

#### 軍□□事□□美□□談

奉天駐劄若松聯隊第五分隊の一等卒石城郡江名町出身の戸田徳次郎君の失明にからざる「市太郎やあーい」にも似た軍事美談が傳へられてゐる。

即ち戸田一等卒は中隊中でもよく軍務に精勵し品行方正なる兵士として、模範とされてゐたが、去る七月廿五日行軍の際同僚が過つて發射した拳銃のため兩眼を傷け大概の者なら氣絶でもするとところを氣丈にもそのまゝ行軍を續けた。

その後手術の結果兩眼球てき出のやむなきに至り終に失明して八月七日廣島の衛戍病院へ歸還の途に着いたが戸田一等卒は奉天驛まで見送りに出た平田聯隊長以下將卒の前で松葉杖にすがり乍ら

「皆さんより先に歸るといふことは遺憾である、兩眼を失つても尙私は帝國軍人の本分を忘れずにある考へである」云々

との健氣なる惜別の言葉に聯隊長以下思はず頰を濡らした、八月二十日戸田一等卒の父親徳藏氏より聯隊長宛に左記の様な手紙が届いたが聯隊長は更に父徳藏氏の心根に涙を新にし感謝状を送つたといふ。

(前略)私達親子は船乗り渡世で徳次郎が負傷したといふ通知を受つたのは千葉縣勝浦方面に出漁中の時でありました、過つてピストルを撃つた同僚の方は嚴重處罰されたさうですが御氣の毒に思ひます「我子を盲にして歸されて親の心中察し入る」との中隊長様からの御手紙ですが何の御旨

息子の處へも手紙を出しましたが他人の過失で盲になつたと怨むやうなことがあつてはならぬ、自分の過失だと思へ、名譽の負傷をして歸つて來るのだから父は非常に喜んでゐると言つてやりました。

### 泥酔の揚句 感違ひして 自分の家と 駐在所に暴れ込む

石城郡赤井村大字赤井柏原倉之助(四)は酒亂の男で近所でも迷惑がつて居たが昨夜午後八時頃平町から所用

の歸途強か泥酔して自分の家と感違ひして隣の駐在所に上り込み初めたので平署へ押送一夜檢束さる

### 二人連ルンペン

お定まりの願出

昨夜六時頃ルンペンの二人連が平署にお定まりの救助を願出たが神奈川縣川崎市東二丁目生れの、高島宗助(三)愛知縣愛知郡日枝橋町字吉田生れ高橋甚太郎(三)といふいづれも住所不定の土工で七月中横濱市土木局で働いて居たが遂に失業し其後仕事にあり付けず高島の叔父三木文吉が本縣梁川町中町に居ると聞き込み兩名は高島の叔父方で世話にならうと横濱から徒歩で來たもので夕食と一部の旅費

### 虎の子の 百圓やあーい

源造さんの落しもの  
拾ひ主から届出

石城郡箕輪村宇高野の高萩源造と言ふお百姓さんは昨八日平町片倉製糸會社にて繭の取引を済し賣上金の百圓を懐中ホク／＼もので歸途に付いたが午後四時頃イザ自動車に乗らうと懷中に手を入れた處大事な虎の子の百圓が蔭も形もないので吃驚仰天の源造さん眼の色を變いて本町通りをウロ／＼したが見付からず諦めつゝで

何氣なく拾ひ上げ開けて見ると手の切れさうな十圓紙幣で十枚百圓也を發見驚いて直ちに届出たので前記の源造さんの落しものと判明した

### 小女轢かる 七日午

前十一時半頃石城郡赤井村御代内喜久太長女矢吹しげ子(一)は學校からの歸途家川白煉瓦工場付近でトラツクに轢かれ右足に全治三週間の重傷を負つた

### 石塔が倒れ 幼兒頭を割る

石城郡江名町字北町佐藤菊松二女春代(六)は七日午後

### 明日のラジオ

今晚は北東の風  
曇り明日は東北  
の風曇り小雨模  
様

今晚の部  
後六、〇〇(子供の時間)  
お話「農村讀本の石川  
翁少年時代」鹽谷羊友  
後六、三〇 趣味の科學知  
識「近代生活が生んだ奇  
病」(一)醫學博士 木村  
直樹  
後七、三〇 講演「生活と  
民謡 渡邊波光  
後八、〇〇 琵琶「小督」堀  
江節蛙

明日の部  
後八、三〇 放送舞臺劇  
「増補双綴巴」(東京歌舞  
伎座より中継) 中村吉  
右工門一座  
後九、四〇 時報 全國ニ  
ユース 氣象通報 番組  
豫告 生蘭相場  
後九、一〇 料理献立「あ  
ゆの魚田」小野やす子  
前一〇、三〇 夏期講座  
「家庭用マツサージ」小川

### 源助

後〇、〇五 連續講座「業  
平金五郎」第四席神田伯  
治  
後二、〇〇 健康講座「受  
療者の心得」醫學博士近  
藤清吾  
後六、〇〇 子供の時間お  
話「川中島の戦」奈良島知  
堂  
後六、三〇 趣味の科學知  
識「近代生活が生んだ奇  
病」醫學博士 木村直樹  
後七、三〇「古曲の夕」  
(講演)高野辰之(江戸踊  
唄)馬場先蹄志賀山勢以  
(一)中節)都一梅(宮園節)  
宮園千廣(繁太夫節)富崎  
春昇(荻江節)深川八景唄  
荻江すゑ外

### 三縣聯合 愛犬品評

本縣及び  
木の兩縣愛犬同志會は聯合  
し來る十五日午前九時から  
平町七丁目に於て愛犬品評  
會を開催する由

### 渡邊諏訪祭り

石城  
郡渡邊村諏訪神社の例祭は  
八九兩日行はれ小名濱島組  
奉納踏踏浪花節その他の餘  
興ある筈

### 無錢飲食の 味をしめて

二度目は失敗  
平町新川町人力挽業渡邊正  
雄(三)は去月末南町飲食店  
入舟車部セツ方で四圓五  
錢の遊興をしたが家人の隙  
を見て逃足したのに味をし  
め七日午後十時頃南町の花  
月事比佐田カツ方で三圓餘  
の飲食をなし此度も逃走せ  
んとして家人に取押られ平  
署へ突出されたが無錢飲食  
の常習らしいと

### 勧誘術の極意

虎の巻を授る平局員  
宜しいか諸君、この保險  
勧誘といふ奴、下手にす  
ると強要だ脅迫だつて突  
き出されようし、といつ  
て弱くては商賣にならん  
坊ちゃん嬢ちゃんを賞め  
るにしても調子の抑揚そ  
の宜しきところに妙味が  
ある、宜しいかな諸君、  
そこで——この十月一日  
から小兒保險が實施され  
るので平郵便局では今か  
ら大童になつてこの勧誘  
術を教へ込んでゐるが、  
そこである具体的にそ  
れを説明すると恨まれる  
から特に後は内證にして  
おこ

# 小説 七五郎

(三十一)

渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

【載轉禁】

『なかに、是れ。』  
歌治はちよいと目を流して不審しげに訊いた。と川島は大きく豪傑笑ひをし

『撲られ賃さ……』といつては妙に聞えるが、見れば目の縁が紅く膨れあがつてゐるやうだ、別に用事をつける程の怪我でもなからうがまあ一日二日は休むとしたがよからう、少いがまあこれが玉だと思つて呉れ

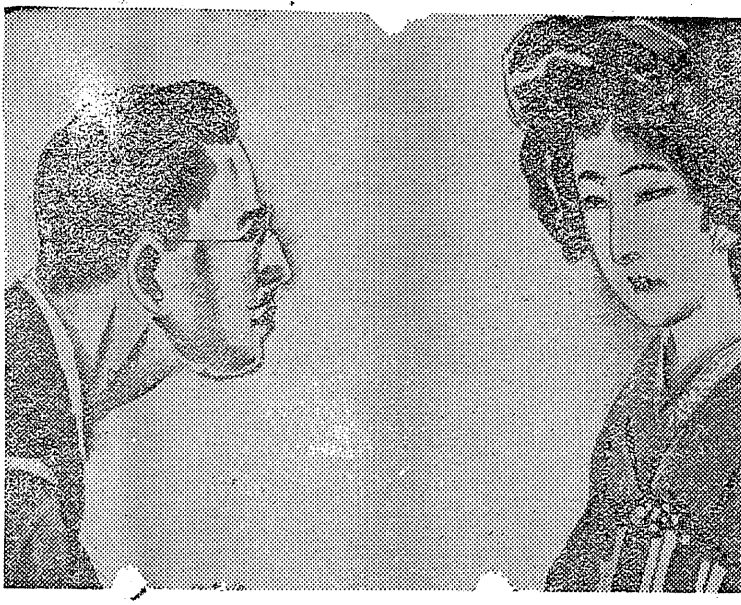
『然う。』

歌治はさげすむやうに奥歯の底でにやりと笑つた。

『それは然うとをい歌治ちやんや、困つたのは私の店の方だ、君も若主人とあつた仲であつて見れば、今は疎遠になつたとしてもまんざらの他人ぢやないから秘密を一つこゝに君に潔く打明けて話すがね。いよゝもつて破滅だよ、もう残念ながら私も由良さん擬きでお城を明渡さなけりやならない、イヤハヤ大變なるよ。君は知らんがもういよゝもつて駄目だよ、氣の毒だが今が潮時だよ。いよゝ加減にあきらめた方がま

『歌ちやんの御利益だよ。』  
ほつと大きな息を吐きつけた、歌治は落着きはらつて煙管の火皿へきよめ紙をあてくるゝと器用に廻しながら。

『然うですか。ちや、いよゝ貴郎の腹切場所ね。』  
歌治は存外平氣であつた川島はやゝ張合抜のした様子で、  
『いや、俺は勿論だが、若主人が實に惨めだよ。それが氣の毒だな。もう悠うなつては道樂どこの騒ぎぢやない、昔ならまづ網笠一介の紙衣物だせ。』  
『そら仕方がないわ。身から出た錆だの、結局どん底まで落ちた方があの人の爲でせう。まあ結構よ。』  
『若し然うなつたら君は如何する何處までも夕霧でいく氣か。』  
『いくもいかないもすつかり袖にされちやつてるんですもの。一人ぼつちの片思ぢや芝居にもなりやしないわよ。』  
『そこで相談だが、ねえ、おい歌治。』



『押しはられつちまつたのだもう駄目だよ。あらゆる物全部……猫のお膳まで……地所や建物も登記々入申請といつて差押へられたのだ。續いて来るのは、競賣と破産の申請で、

『いやと』  
『ちやが斯う借金山では誰しも助けても救ひ手も無い、まづ自滅するより外には致し方がないとはあきらめて居るが、實にみぢめなものだ。』  
額に小皺を寄せて惱ましげにめばたきするのであつ

井 三  
の  
商品切手  
番 八 四 三 二  
電 三 平

三井物産  
三井内務局  
電話 〇三〇番

御用命は總て印刷物の  
常警日印刷株式會社  
電話 三六〇番

平新川町十九  
**木村病院**  
電話 一六四番  
産人科 院長 木村寅次郎  
内臓外科 醫學士 松永憲一  
整形外科 醫學士 萩原駿二  
藥局 東京藥學士 萩原駿二

**お醬油は ヤマフル**  
醬油味噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品  
鹽屋  
合名會社  
福島縣平野町  
電話(營業部)一〇番  
(醸造工場)二七番

■ 産名城磐 ■  
**新製節味醬油**  
最優最大日本生命平代理店  
志賀盛榮  
平四丁目 電話二二三番  
配達敏速

看護婦急派の求めに應じます  
平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番  
耳鼻咽喉科専門  
**大和田醫院**  
平町南町  
電話一七〇